

一人の女性の熱意が生んだ、
戸畑・ポン菓子物語

「バーン!!」と響く破裂音、もくもくと煙る蒸気、漂ってくる甘い香り……。出来たての香ばしいポン菓子には、誰もが懐かしさを感じます。しかし、そんなポン菓子が、実は北九州市から広まったという事は、あまり知られていません。

ポン菓子が、日本で一般的に広まったのは、1946年、初めての国産ポン菓子機「吉村式ポン菓子機」が出来てからの事。この機械を開発したのが、北九州市戸畑区にあるタチバナ菓子機代表取締役の吉村利子さんです。

吉村さんは、1925年（大正14年）大阪生まれ。ポン菓子機を作るきっかけとなったのは、吉村さんが小学校の教師をしていた頃の体験にありました。

当時は戦争の真っ只中、配給される雑穀はあるものの、それを炊く燃料が不足し、堅い雑穀を食べる子供達は、消化不良で下痢をおこし、やせ細っていました。吉村さんは当時の事をこう語ります。

「子供を抱きしめた時の、あの骨ばった肩の感触は忘れられない。何とかしてあげたい。何とかして消化のいいものを食べさせてあげたいと思った。」

そんな中、蒸気を利用して穀物を何倍にも膨らますベルギーの「穀類膨張機」の存在を知ります。「これだ!」と思った吉村さんは、早速知り合いの大学教授に相談。試行錯誤の上、機械の設計図が完成しました。

しかし、材料となる鉄がありません。それなら、北九州に行けば、鉄も技術も職人もいる。

こうして、20歳の吉村さんは、図面を片手に単身北九州へと旅立ったのです。

到着後、鉄工所を訪ね歩くも、最初の頃は全く相手にされず、からかわれる事もあったと言います。しかしすぐに協力してくれる職人が見つかります。「吉村式ポン菓子機」が完成したのは、それから2年後の事でした。機械は瞬く間に全国へと広がり、甘いポン菓子は、多くの子供達を笑顔にしました。

「昨日より今日、一つでも向上したい。」と8歳の今もなお、使い方指導のために各地を駆け回り、時には海外へも足を運ぶ吉村さん。その情熱から生まれたポン菓子機は、子供から大人まで今も多くの笑顔を生み続けています。

広告

企画：(株)読売広告西部
制作：cross fm

北九州市 市政ラジオ番組



好評放送中!

cross fm 月～金 11:00～11:05
北九州 77.0MHz 行橋 87.2MHz

「北九州メモリアルストーリー」は毎週金曜日に放送中!!

※本文章は平成25年6月21日にcross fm「北九州トーク ウィズ ユー」で放送された内容を元に制作しています。

●放送音源を聴いてみたい方は

crossfm ポッドキャスト

検索

●アーカイブをご覧になりたい方は

北九州市 時と風の博物館

検索